

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03279

研究課題名(和文)「地域文化」の概念的整理と現象分析への展開 地理学方法論の試みとして

研究課題名(英文) Concept arrangement and phenomenological examination of "regional culture":  
approaches in methodology of geography

研究代表者

大城 直樹(Oshiro, Naoki)

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：00274407

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はこれまで自明視されることの多かった「地域文化」なるものを、学説史・理論、地域表象、地域組織の観点から、地理思想・方法論の最新の成果を取り入れつつ根底的に概念レベルから精査し、かつ具体的な事例分析を通して、その表象の仕組みを明らかにし、問題点を指摘し、有用化する試みであり、その成果として、「地域文化」の理解に包括的な知的枠組みを提供し得たものと考え。巷間に溢れる「地域文化」をめぐる論点を整理し、地理学の有効性を提示し得たという点に、本研究の意義があるものと考え。あらたな「地域文化」理解が、それをキー・タームとして活動する団体や自治体の発想への補助線となることも予想できる。

研究成果の概要(英文)：This research project has been engaged in an attempt to clarify mechanisms and structures of representation of the "regional culture", which is generally understood as a taken-for-granted issue. Through profound investigations and empirical case studies from the perspectives of theory and history of geography, regional representation, and regional constitution, we elucidated the configuration of diverse "regional cultures" and pointed out its problems, thereby searched for the way of utilizing the concept of "regional culture" in contemporary society. As a result, we could conclude to some intellectual frameworks for understanding of the "regional culture" and suggest some conceptual guidelines to utilize it.

研究分野：人文地理学

キーワード：地域文化 地理思想 民芸 ツーリズム

### 1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで沖縄の地域アイデンティティについて研究を行ってきたが、その後、特定の空間的範囲とアイデンティティの組み合わせという一般的・形式的な関係性それ自体への関心を強めていった。そこで関心と同じくする研究者たちと研究会を組織し、『空間から場所へ』(古今書院,1998年)、『郷土』(嵯峨野書院,2003年)という二冊の本を成果として出すに至った。幸いなことにそれと並行して、H19~21年度には基盤(B)「地理思想および社会思想としての「郷土」に関する研究」、H22~24年度には基盤(B)「地域文化」の生産・流通・消費に関する文化地理学的研究」の二つの科研費を受けることができ、更に研究を進めていくことができた。今回の申請は、そこで得られた成果の公表に向けて更に展開・深化させるべく、「地域文化」あるいはそこで措定される「地域なるもの」をめぐって交錯する諸表象と諸実践に焦点を当て、それがなぜ「分節化(曖昧な状況からはっきりと形をとるようになること)」される必然があったかを問うことにある。

我々のこれまでの科学研究では、まず、「郷土」という概念のそもそもの成立から、地方改良運動、郷土教育運動、郷土博物館、地域的なメディア・イベントなどについて、時系列的にたどり、「郷土」なるものがどのように表象され、またそれをめぐって官民間わずどのような実践が行われてきたかを考察した。つぎに、いったん「郷土」という術語から離れて、同様の事象と比較検討する必要性を感じたことから、「地域」および「地域文化」という術語に着目し、より広いコンテクストにおける表象と実践、ならびにそれらの現前と事象を存立可能とならしめる要件について精査していった。本申請においても引き続きこの存立要件の考察を行ってきたい。

### 2. 研究の目的

街おこし・地域おこしといったイベント、名産品、民芸品などのモノ、また郷土愛といった精神的な表象にいたるまで、地域と文化の組み合わせは、ツーリズムの発達とも連関する形で、従来の地域的文脈から切り取られたり、違う文脈に接合されたりしながら、編成・再編成されてきた。この「地域」という特定の空間的範囲が「文化」と結びつけられることで事実上何が充填/発現されるのか。本研究は、従来自明で所与のものと考えられがちな「地域文化」を、構築的なものと措定することでいったん分解し、各々の概念の問題ならびにこの二つの組み合わせ自体に孕む無意識的な接合の在り方を精査することで、ごく日常的に用いられる「地域文化」表象を本質論から一度解放し、そこで得られた概念的知見を具体的な事例を通して検討することで、地域主義やナショナリズムに結び

つくその構造的な枠組みと問題点を析出することを目的とする。

### 3. 研究の方法

「地域文化」をめぐる諸様相を究明するべく、本研究では、(1)「学説史・理論研究班」、(2)「地域表象研究班」、(3)「地域組織研究班」を設置し、研究課題に取り組むこととする。(1)「学説史・理論研究班」は、人文地理学で1990年代後半におこった「文化論的転回」後の学説や理論、方法論について主として文化地理学を中心に整理を行う。N.スリフトらによる「非=表象理論」や情動(affect)論、“Material Turn(物質論的転回)”,またより近年の“Mobility Turn(可動論的転回)”がその対象となる。これらは森(2009a,b)が既に紹介してはいるが、地理学人口に膾炙するには至っていない。抽象度の高い議論をいかに具体的な事例と結びつけていくか、そしてそれを分かりやすく紹介していくか、これらについて、まずは本班で共通の理解・認識を獲得すべく努力する。逆に如何にしてこれらの概念や知的運動が生じたのかを明らかにすることも重要である。むろんここで得られた知見を、他の二班の問題系といかに結びつけられるかを検討するものである。(2)「地域表象研究班」は、地域や国家なるものがいかにして表象させられてきたかを、博覧会や博物館、共進会、ツーリズム、民芸運動、そしてアカデミズム(民俗学等)を対象として、具体的に明らかにしていく。これらと連動して発現する国民国家と地理的表象の関係(愛国心、愛郷心、お国意識など)、およびナショナリズムや帝国主義や植民地主義と景観や建造環境の関係についても解明していく必要がある。そして「地域」表象に関わるエイジェント(主体的行為者・機関)、そしてそれらが「地域文化」に与えた影響を明らかにしていく。

(3)「地域組織研究班」は、地域を表象する主体について検討を行っていく。コミュニティ・レベルを中心とするものの、視野は身体レベルから国家、あるいはより広域レベルまで、複層的に持つものとする。特定の地域が編成・再編されることにより、その地域表象の在り方がどのように変化していくのか考察していく。例えば近代都市生成期に新たに編成されるコミュニティと住民、基地問題等で意見が二分され外的介入も強い村落コミュニティ、復帰後の沖縄における奄美の人々等、何らかの契機によって、従来とは異なった地域意識を持つようになったケースを主に扱っていく。

### 4. 研究成果

本研究はこれまで日本の研究においては自明視されることの多かった「地域文化」なるものを、地理思想・方法論の最新の成果を取り入れつつ根底的に概念レベルから精査し、かつ具体的な事例分析を通して、その表

象の仕組みを明らかにし、問題点を指摘し、有用化していくという点で独創的であると言える。これによって「地域文化」の理解に包括的な知的枠組みを提供し得たものと考えられる。また、しばしば空間的視角を欠く社会学や人類学、観光学、文化史で行われきた文化研究とは質的に異なる成果を得たという点においても特徴があるといえる。例えば「地域」という術語は、隣接社会科学においては「ルーラルな」という形容詞を実質的に含意することが多いが、地理学ではそのような含意を伴わない。むしろマルチ・スケールでそれを考えようとする。この利点を活用し、巷間に溢れる「地域文化」をめぐる論点を整理し、地理学の有効性を提示し得たという点で、本研究の意義は大いにあったと言える。あらたな「地域文化」理解が、それをキー・タームとして活動する団体や自治体の発想への補助線となることも予想できる。さらに、物質論的転回、また移動論的転回を経て展開された非表象理論や情動理論等の欧米の最新の理論を日本の知的・思想的文脈で再考したことにより、欧米中心主義的理解の相対化を可能にし、応用可能性の精査を行いつつ国際的に発信していくことで、地理学におけるさらなる理論的・方法論的發展に貢献できたものと考えられる。

具体的な成果については、個々の単行本や論文、国際・国内学会発表の形で公表されている。テーマは多岐にわたるが、代表的なものについては、下記に見られるとおりである。「学説史・理論研究班」では、マルチスケールかつマテリアリティに関する議論を踏まえながら、国家表象、国民精神、国民国家形成前後の縁辺地域の位相、「自然」なるもの、「日本」の風景、「日本らしさ」、可視性と物質性、アトラス等、表象の機制を精査する研究が行われた。

「地域表象研究班」では、観光、民芸の場とそれをめぐる語り、民俗、墓地、写真、国立公園、温泉地と紀行文、文化的景観、若者の場所等、表象のレトリックとポリティクスについて、具体的な事例研究に基づいた分析が推し進められた。

「地域組織研究班」では、伝染病と都市、環境保全、都市と祭礼、「遊楽」空間、基地のある都市、反基地運動、ライブパフォーマンスと地域社会等、社会集団と地域に関する研究が行われた。

なお、全体的な成果のダイジェスト版については、単行本の形で近々出版予定である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 22 件)

加藤政洋, 基地都市コザにおける門前商店街「ゲート通り」の店舗構成とその特色, 立命館文学, 査読無, 656, 2018, 236-254,

濱田琢司, 窯業地・瀬戸の伝統生とその評価: 民芸運動の「産地語り」と瀬戸本業窯についての覚書, 日本文化学科論集(南山大学日本文学科), 査読無, 18, 2018, 23-39

濱田琢司, 新たな「場」をひらく: 益子参考館と東日本大震災から, 人類学研究所研究論集(南山大学人類学研究所), 査読無, 4, 2018, 45-67

関戸明子, 紀行文に描かれた近代の草津温泉, 群馬大学教育学部紀要(人文・社会科学編), 査読無, 67, 2018, 61-76

森 正人, スマートなるものと確率化される現実社会: 人と物のデジタル的管理への批判的視角のために, 観光学評論, 査読有, 6-1, 2018, 53-68

中島弘二, 環境保全と「ワイズユース」, 地理科学, 査読有, 72-3, 2017, 182-194,

濱田琢司, 民芸的蒐集と資料性 アーティなものとの資料とのあわい, アルケイア記録・情報・歴史(南山アーカイヴス), 査読無, 12, 2017, 71-89

ONJO Akio, The Politics of Urban Festival and Community in Postwar Japan: Hakata Gion Yamakasa in Fukuoka City, Japanese Contributions to the History of Geographical Thought, 査読無, 11, 2017, 75-92,

NAKASHIMA Koji, Who stopped the US base construction? Recent anti-base movements in Okinawa and resistance from "bare life, Japanese Contributions to the History of Geographical Thoughts, 査読無, 11, 2017, 5-15

FUKUDA Tamami, Rural landscapes with rice terraces and the politics of aesthetics. Japanese Contributions to the History of Geographical Thought, 査読無, 11, 2017, 17-31

関戸明子, 草津温泉の開湯伝説と歴史意識の形成, 群馬大学教育学部紀要(人文・社会科学編), 査読無, 66, 2017, 65-78

加藤政洋, 基地都市コザにおける宿泊業の立地展開: ヴェトナム戦争期を中心に, 立命館文学, 査読無, 650, 2017, 27-41

加藤政洋, 基地都市コザにおける歓楽街「センター通り」の商業環境: 1970年「事業所基本調査」の分析から, 立命館文学, 査読無, 649, 2017, 134-161

神田孝治, 沖縄本島における墓地を対象とした観光の生産とその変容: 移動に注目したダークツーリズムの考察, 観光学評論, 査読有, 5-1, 2017, 93-110

大城直樹, 1980年代の「裏原宿」: 文化地理学的回想, 地理, 査読無, 729, 2016, 69-73

遠城明雄, 自然・都市化・インフラストラクチャー: 「都市政治生態学」に関する覚書, 史淵, 査読無, 153, 2016, 117-149

関戸明子, 秋山郷における秘境イメージの形成と流通, 群馬大学教育学部紀要(人

文・社会科学編), 査読無, 65, 2016, 37-54  
濱田琢司, 工芸品消費の文化的諸相と百貨店 民芸運動とその周辺から, 国立歴史民俗博物館研究報告, 査読無, 197, 2016, 265-294

山口 晋, 派遣されるヘブンアーティストとイベント化するストリート, 目白大学人文学研究, 査読無, 2016, 12, 105-117

加藤政洋, 戦後京都における『歓楽街』成立の地理的基盤: 花街の変容に着目して, 立命館文学, 査読無, 645, 2016, 45-63

②1 加藤政洋, 戦後那覇の都市化と地名の生成に関する地理学的研究, 学術研究助成報告集 第2章(公益財団法人 国土地理協会), 査読無, 2016, 223-239

②2 SHIMAZU Toshiyuki, The Modern Atlas as Diplomatic Gift: Vandermaelen's Atlas de l'Europe and Dutch-Japanese Relations in the Mid-Nineteenth Century, Maps in History (Newsletter of the Brussels Map Circle), 査読有 54, 2016 12-14

[学会発表](計 42 件)

大城直樹, 「地域文化」の概念的整理と現象分析への展開: 地理学方法論の試みとして, 日本地理学会春季学術大会(東京学芸大学), 2018

島津俊之, 風景のアーカイヴズ再考: マリアヌヌ・ノース・ギャラリーと風景画, 日本地理学会春季学術大会(東京学芸大学), 2018

福田珠己, プロジェクション・マッピングと公共空間の商品化, 日本地理学会春季学術大会(東京学芸大学), 2018

中島弘二, 松下竜一と安里清信の環境主義: 環境権から生存権へ, 日本地理学会春季学術大会(東京学芸大学), 2018

遠城明雄, 戦間期の地方都市における尿処理問題: 呉市と佐世保市を事例として, 人文地理学会(明治大学), 2017

山口 晋, 野外音楽フェスティバルの盛衰と地域社会とのかかわり, 日本地理学会春季学術大会(東京学芸大学), 2018

神田孝治, 観光地における自由と歓待: 与論島を事例とした考察, 日本地理学会春季学術大会(東京学芸大学), 2018

関戸明子, 昭和初期における群馬県の観光プロモーションの特徴, 日本地理学会春季学術大会(東京学芸大学), 2018

濱田琢司, 47 都道府県を展示する「d47」と現代の地域文化消費, 日本地理学会春季学術大会(東京学芸大学), 2018

KANDA Koji, Hospitality and tourist mobility: A case study of Yoron Island in Japan, Critical Tourism Studies- Asia Pacific Inaugural Biennial Conference (Yogyakarta, Indonesia), 2018

大城直樹, 地域における文化遺産・文化財 - 継承・活用・展望 -, 駿台史学会大会(明治大学), 2017

NAKASHIMA Koji, Locating tropical timber in the empire: the Forestry Research Institute of the Japanese Government-General of Taiwan and its researches. The Fourth Conference of East Asian Environmental History (Tianjin, China), 2017

ONJO Akio, After the Excitement of War: The situation of Sick and Wounded Soldiers (Invalids) in Japanese Modern Society, 25th International Congress of History of Science and Technology(Rio de Janeiro, Brazil), 2017

FUKUDA Tamami, Privatization of an urban public space and a spectacular projection mapping show: The case of Osaka Castle Park in Japan, 5th International Visual Methods Conference (Singapore), 2017

山口 晋, 大道芸ライセンス制の「ヘブンアーティスト事業」からみる東京都の動き, 日本都市社会学会(早稲田大学), 2017

中島弘二, 水俣病, 生政治, 身体: 石牟礼道子と緒方正人を手がかりに, 人文地理学会大会(明治大学) 2017

中島弘二, 「南方森林資源」開発と日本林業-帝国林業の継承-, 日本地理学会春季学術大会(筑波大学), 2017

OSHIRO Naoki, Aspects of borders that create discontinuity in the Ryukyu archipelago: a study of cultural territoriality, 33rd International Geographical Congress(IGC), (Beijing, China), 2016

ONJO Akio, Sanitation, Modernity and Subject: Contradictory Processes of Introduction of New System in Modern Japan, 33rd International Geographical Congress,(Beijing, China), 2016

NAKASHIMA Koji, Inheritance of imperial forestry: Japan's tropical forest development in Southeast Asia, The 33rd International Geographical Congress,(Beijing, China) 2016

②1 FUKUDA Tamami, Photography, the Rural Landscape, and Geographical Imagination in Japan in the Early Twentieth Century, The 33rd International Geographical Congress (Beijing, China), 2016

②2 ONJO Akio, The Politics of Human Excreta: Urbanization and Metabolic Rift in Japan during 1920s, The 8th East Asian Regional Conference in Alternative Geography, (Hong Kong, China), 2016

②3 加藤政洋, 基地都市コザにおける照屋「黒人街」の商業環境, 人文地理学会大会(京都大学), 2016

②4 神田孝治, 沖縄本島における墓地を対象とした観光の生産とその変容: モビリティ

- に注目したダークツーリズムの一考察, 第5回観光学術学会大会(立命館大学), 2016
- ②⑤ 島津俊之, メルカトルとオルテリウスの地図と地図帳にみる日本との関わり, 日白修好 150周年記念シンポジウム「文化・知の多層性と越境性へのまなざし 学際的交流と「ベルギー学」の構築を目指して」(東京理科大学), 2016
- ②⑥ 中島弘二, 「自然の地理学」の観点からみた湿地のワイズユース. 地理科学学会秋季学術大会(広島大学), 2016
- ②⑦ NAKASHIMA Koji, 2016., Anti-base movements from lifeworlds: opposition movements against the land-requisition by the US Forces in the 1950s Japan. The 8th Meeting of East Asian Regional Conference in Alternative Geography, (Hong Kong, China), 2016
- ②⑧ FUKUDA Tamami, Fall in love with “Japaneseness”: Reconsidering the conservation of rural landscape and the reaffirmation of Japanese culture. The 8th Meeting of East Asian Regional Conference in Alternative Geography, (Hong Kong, China), 2016
- ②⑨ 森 正人, 美しきものと政治的なもの: 自然、種、セキュリティをめぐる問い, 日本地理学会春季大会(早稲田大学), 2016
- ③⑩ 中島弘二, 自然の生産と消費: 「自然の地理学」の視点から, 日本地理学会春季大会(早稲田大学), 2016
- ③⑪ 福田珠己, 農村景観と美の枠組み, 日本地理学会春季学術大会(早稲田大学), 2016
- ③⑫ SHIMAZU Toshiyuki, Creating Japanesque Landscapes in the German Crystal Palace: Edmund Naumann and the 1887 Japanese Art Exhibition in Munich, 16th International Conference of Historical Geographers (London, U.K.), 2015
- ③⑬ FUKUDA Tamami, Gender and historical geography in Japan: Current conditions and prospects, 16th International Conference of Historical Geographers (London, U.K.), 2015
- ③⑭ 遠城明雄, 1913年の下関における騒擾について, 人文地理学会大会(大阪大学), 2015
- ③⑮ 遠城明雄, 伝染病と都市社会 明治期の仙台におけるコレラ流行, 東北地理学会(仙台市戦災復興記念館), 2015
- ③⑯ 福田珠己, ミュージアム再考 視覚技術、空間表現の視点から, 人文地理学会大会(大阪大学), 2015
- ③⑰ 森 正人, Visuality/ materialityへの視角, 人文地理学会大会(大阪大学), 2015
- ③⑱ 神田孝治, 沖縄本島における死にまつわる場所を対象とした観光の社会的生産とその変容, 人文地理学会(大阪大学), 2015
- ③⑲ NAKASHIMA Koji, Forestry development

- in Borneo and a fate of tropical forest: a case of Japanese forestry company, The 3rd Conference of East Asian Environmental History, (Kagawa, Japan), 2015
- ④⑩ KANDA Koji, Homogeneity and Hybridity of National Park Landscapes: A Case Study of National Parks in Taiwan under the Japanese Colonial Period, The 3rd Conference of East Asian Environmental History (EAEH 2015)(Kagawa, Japan), 2015
- ④⑪ OSHIRO Naoki, Space coming to time: on the translation of the peripheral into the national context in modern Japan, IGU 2015 Moscow Regional Conference (Moscow, Russia), 2015
- ④⑫ 神田孝治, 和歌山大学観光学部における学生教育とシェネリックスキル, 日本産業教育学会 56回大会(和歌山大学), 2015

〔図書〕(計 8件)

- 森 正人, KADOKAWA, 「親米日本」の誕生, 2018, 250
- 加藤政洋編, ナカニシヤ出版, モダン京都 遊楽 の空間文化誌』, 2017, 244
- 日本民藝館監修, 深澤直人・白土慎太郎・古屋真弓・杉山享司・濱田琢司・土井善晴, 筑摩書房, 民芸の日本 柳宗悦と『手仕事の日本』を旅する, 2017, 159, (131-134)
- 森 正人, 新曜社, 展示される大和魂— <国民精神> の系譜, 2017, 278
- 山口 晋, ナカニシヤ出版, ライブパフォーマンスと地域 伝統・芸術・大衆文化, 2017, 212, (141-156)
- 大橋昭一・山田良治・神田孝治編, ナカニシヤ出版, ここからはじめる観光学, 2016, 238
- 森 正人, KADOKAWA, 戦争と広告, 2016, 265
- 遠城明雄, 神田孝治, 大城直樹, ミネルヴァ書房, 人文地理学への招待, 2015, 296, (11-28, 143-59, 160-179)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大城 直樹 (OSHIRO, Naoki)  
 明治大学・文学部・教授  
 研究者番号: 00274407

(2) 研究分担者

遠城 明雄 (ONJO, Akio)  
 九州大学・人文科学研究院・教授  
 研究者番号: 00243866

島津 俊之 (SHIMAZU, Toshiyuki)

和歌山大学・教育学部・教授  
研究者番号：60216075

関戸 明子 (SEKIDO, Akiko)  
群馬大学・教育学部・教授  
研究者番号：50206629

中島 弘二 (NAKASHIMA, Koji)  
金沢大学・人間科学系・准教授  
研究者番号：90217703

福田 珠己 (FUKUDA, Tamami)  
大阪府立大学・人間社会システム科学研究  
科・教授  
研究者番号：80285311

加藤 政洋 (KATO, Masahiro)  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：30330484

濱田 琢司 (HAMADA, Takuji)  
南山大学・人文学部・教授  
研究者番号：70346287

神田 孝治 (KANDA, Koji)  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：90382019

森 正人 (MORI, Masato)  
三重大学・人文学部・准教授  
研究者番号：10372541

山口 晋 (YAMAGUCHI, Susumu)  
目白大学・社会学部・准教授  
研究者番号：50507712